



## 受光部ユニット

FT-4600、4800、4900および5800に取りつけるもので、受光部ユニットの8ピンのコネクターをトランシーバー本体のマイク端子に接続します。長さ約3メートルの受光部ユニットのコードは、発光部ユニットからの微弱電波の受信アンテナとしても動作しているので、マイクからの変調信号がもっともよく受信できる場所に設置してください。(図1参照) また、受光部ユニットには直射日光が当たらないようにご注意ください。この部分に直射日光が当たると、太陽光に含まれている赤外線により誤動作の原因になることがあります。

**注** 受光部ユニットのコネクターをトランシーバー本体のマイクコネクターに接続するときは、トランシーバー本体の電源は必ずOFFにしてから差し込んでください。

また、受光部ユニットのコードは微弱電波の受信アンテナとしても動作していますので、たわみのないよう、きちんと張るようにしてください。

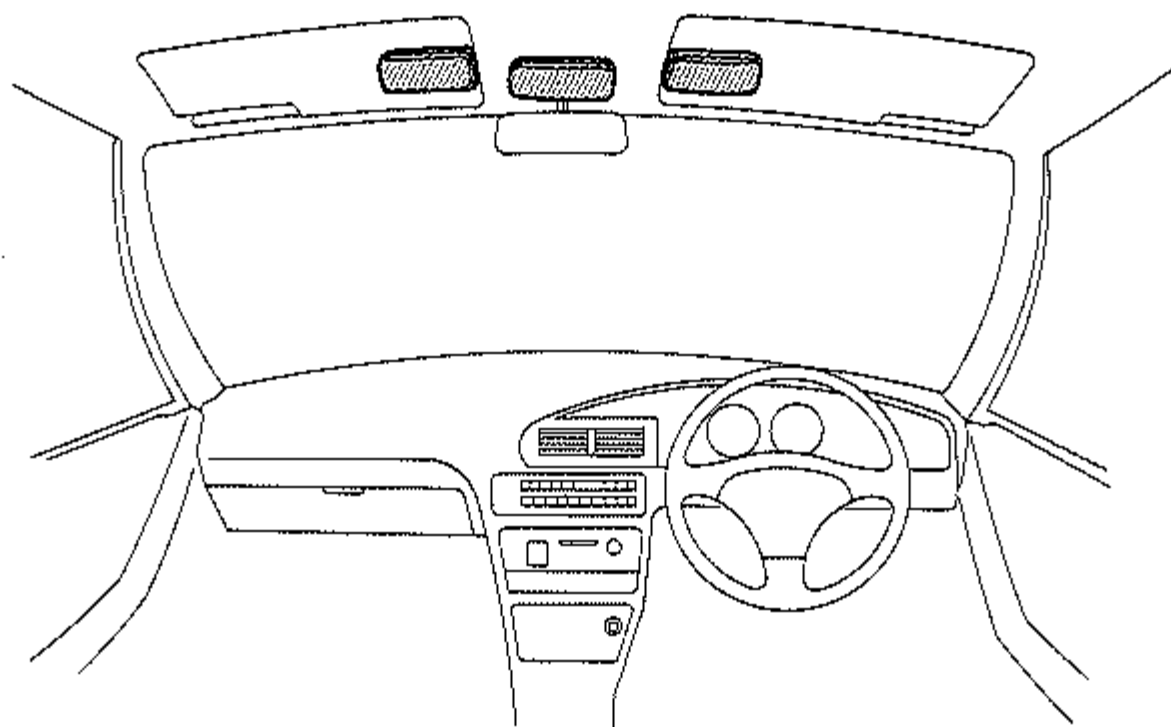


図1

受光部ユニットの取り付け場所として考えられるところ、直射日光が当たらない場所を選びセットしてください。

## 発光部ユニット

発光部ユニットにあるキーにより、トランシーバーのパネル面にあるすべてのキー(ただし電源のON/OFFスイッチを除く)、およびツマミのリモコン設定ができます。

また49MHz付近の微弱電波により、マイクからの音声を送ることもできます。発光部ユニットにあるPTTを押せば、トランシーバーは送信状態になります。

なお発光部ユニットと受光部ユニットの距離は、周囲の状況によっても多少変化しますが、受信アンテナを最大に伸ばして設置すれば、5メートルくらいまでの範囲でリモコンが可能です。音声を送るときは発光部ユニットをどのような位置に置いて使っても差しつかえありませんが、PTTを除くキー操作の場合は発光部ユニットを必ず受光部ユニットに向ける必要があります。(図2参照)

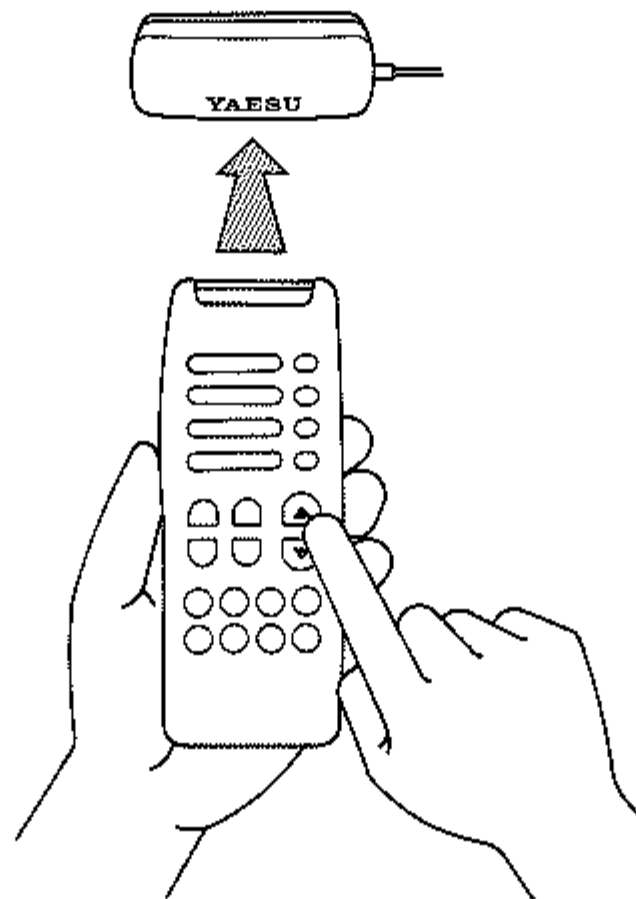




図2  
発光部ユニットの先端を正しく受光部ユニットに向けてからキーを押してください。

発光部ユニットの機能は、つぎの通りです。

キーの名称	機 能
<p>1~0, A~D, *, #</p> <p> </p> <p>D/MR, SKIP</p> <p>MHz, PRI</p> <p>RPT, R SET</p> <p>REV, STEP</p> <p>BAL</p> <p>SQL</p> <p>VOL</p> <p>BAND, ALT</p> <p>CALL, PAGE</p> <p>LOW, LOCK</p> <p>TONE, T SET</p> <p>DVS, MUTE</p>	<p>送信中はそれぞれDTMFの1~0およびA~D、ただし0キーはRMCのON/OFFに関係なくBANDキーとして動作。</p> <p>受信中はRMCのON/OFFに関係なくUP/DOWNキーとして動作。</p> <p>ダイヤルモードとメモリーモードの切り換え、およびメモリーチャンネルスキップ機能の設定。</p> <p>MHz桁の設定とプライオリティー機能。</p> <p>レピーター運用とシフト幅の設定。</p> <p>送受信周波数リバース運用、およびステップ幅とスキャンモードの設定。</p> <p>メインバンドとサブバンドのバランス調整。 (注:ツマミのセンタークリック点に相当するところを通過したとき、リモコンでは“ピッ”音が出る。)</p> <p>メインバンドとサブバンドのスケルチレベル調整。</p> <p>受信時の音量調整。</p> <p>メインバンドとサブバンドの切り換え、およびオルタネート機能。</p> <p>コールチャンネルの呼び出しとページャー機能。</p> <p>送信出力のHIGH/LOW切り換えとキーロック機能。</p> <p>トーンスケルチ機能の設定とトーン周波数の設定。</p> <p>ボイスメモリー運用のON/OFFとミュート機能。</p>

キーの名称	機 能
SUB, OP	モノバンド運用 (サブバンド“OFF”とサブバンドに対する各種機能の設定。)
RMC	リモコン機能のON/OFFスイッチ(発光部ユニットの電源のON/OFFではないので注意)。ONの場合にはトランシーバー本体のディスプレイ部に[RMC]が点灯する(図3参照)。 [RMC]がOFFの状態では発光部ユニットのキーはDTMFキーを除き動作を停止 (ただし ▲ ▼ キー、0キーは動作する)。
F/W	ファンクション機能のON/OFFとメモリーセット。

(注1) ここに示した表はそれぞれのキーの動作について、概略を説明したものです。くわしくはトランシーバー本体に付属の取扱説明書をご参照ください。

(注2) [RMC]はREMOTE CONTROLLERの略、つまり発光部ユニットの意味です。

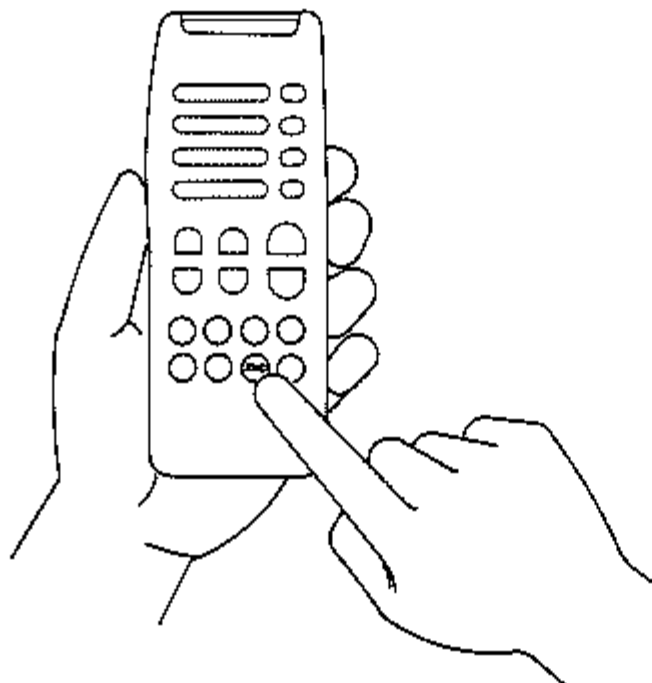



図3

発光部ユニットの[RMC]キーを押してリモコン機能をONにしてください。

## 発光部ユニットの操作

- (1) トランシーバー本体の電源スイッチにより、電源をONにします(受光部ユニットのコネクターは、トランシーバー本体の電源がOFFの状態に接続してください)。
- (2) 発光部ユニットの[RMC]キーを押して、リモコン機能をONにします。(トランシーバー本体のディスプレイ部に[RMC]が点灯したことを確認する。図3参照)。
- (3) 必要に応じて発光部ユニットのキーを押し、トランシーバーの動作状態を設定します。キーが押されるたびに発光部ユニットの“RMC”が点灯し、リモコン信号が送られたことを示します。
- (4) これらのキーを押してリモコン信号を送るときは、発光部ユニットは受光部ユニットに正しく向けてください。
- (5) トランシーバーを送信状態にするときは、発光部ユニットのPTTスイッチを押し、“MIC”に向って送話します。PTTスイッチを離すと、トランシーバーは受信状態にもどります。
- (6) トランシーバー本体の[RMC]が点灯しているときは、パネル面にあるVOL、SQL、BALツマミは動作しません。  
VOL、SQL、BALの各ツマミの状態を発光部ユニットで設定したあと[RMC]を一度OFFにすると、再度[RMC]をONにしても以前の状態は保持されません(その他の機能については[RMC]のON/OFFに関係なく、発光部ユニットで設定された状態が保持されます)。
- (7) PTTスイッチを押したとき、および離れたときに“RMC”が瞬時的に点灯するのは、送受信切り換えのリモコン信号が送出されたことを示しています。
- (8) PTTスイッチの横にキーを照明するためのプッシュスイッチがあります。このスイッチを押しているあいだはキーが照明され、離すと約2秒後に照明が消灯します。

## 電池の交換

発光部ユニットの背面にある部分を押し、矢印方向に動かすとカバーがはずれ、電池が出てきます。

これらの電池には単四形が2本使われており、交換時には極性を間違えないようにご注意ください。

## 使用時のご注意

本機は、機能の拡張などがある場合を考慮して、設定SWの切り換えにより、2種類の赤外線コードが設定できるようになっています。

通常は、工場出荷時に設定してある“1”の位置でご利用ください。設定SWが“2”の位置では動作しなくなります。

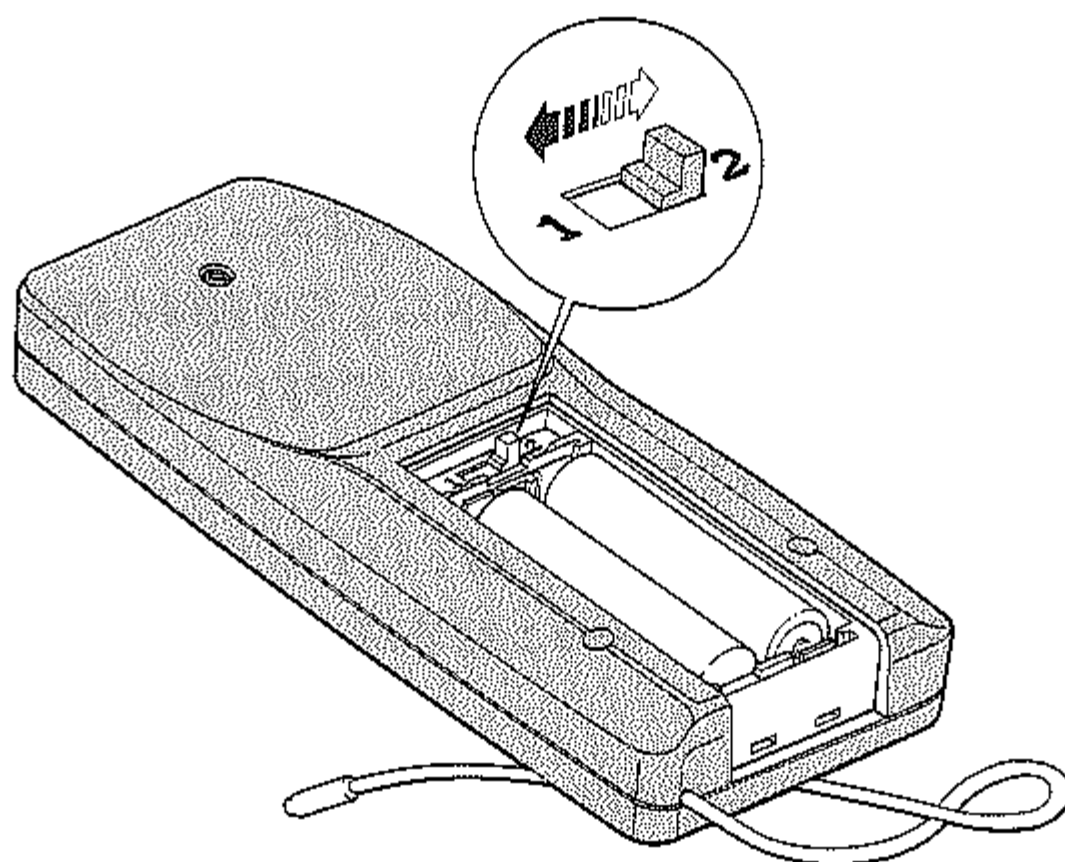


図4 設定SWの位置

また、本機は、PTT操作を49.85MHzの微弱電波使用してコントロールしているため、受光部ユニットをコンピューターの近くなど、ノイズの影響を受けやすい場所に設置すると、PTT操作を行なわないのに送信状態になる場合があります。

このような誤動作が生じるときには、下記に示す手順に従って、受光部ユニットを“微弱電波と赤外線の両方の信号を受けたときに動作する”ように改造してください。

- (1) 図5を参考に、受光部ユニットの前面カバーを取り外します。
- (2) 図6に示した、基板上のパターン間 (JP3) を、ハンダ等でジャンパーします。
- (3) 以上で改造は終了です。受光部ユニットのカバーを元通りに取り付けます。

**注** この改造を行なった場合には、PTT操作を行なうとき (PTTスイッチを押すときと離すとき) には、必ず他のキー操作と同様に、発光部ユニットの先端を受光部ユニットに向けて行なってください。

この改造を当社営業所／サービスに依頼する場合には、所定の工賃を申し受けますので、ご了承ください。



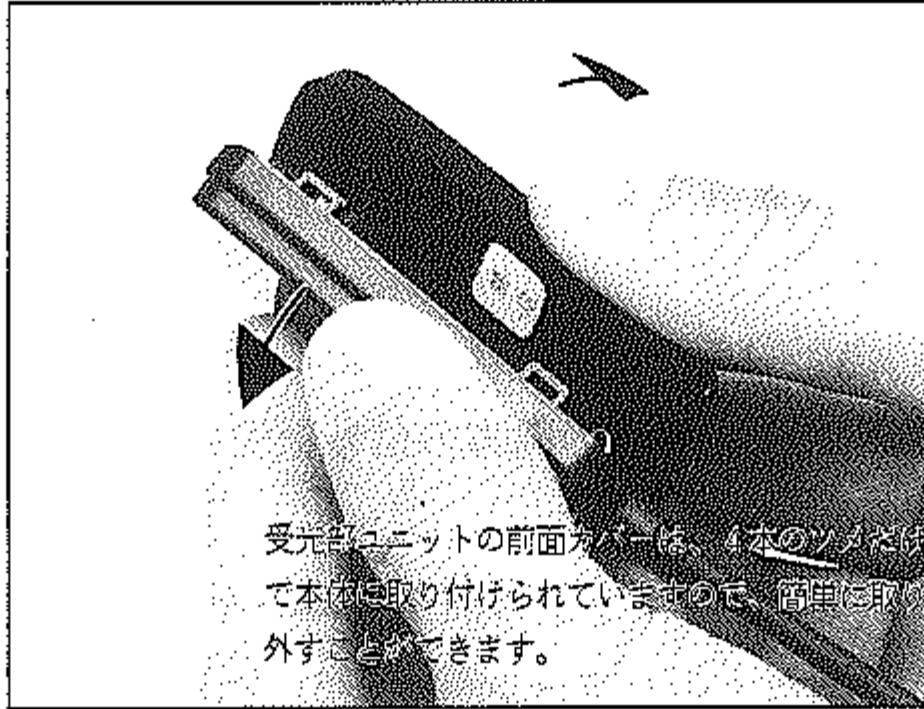


図 5

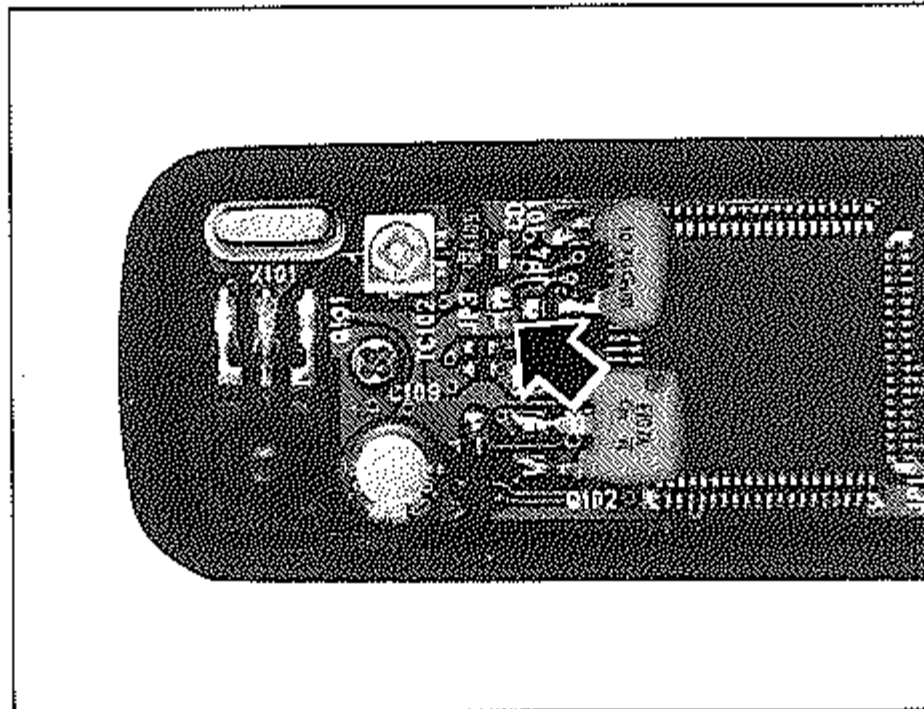


図 6

さらに、次の事項にも注意してご使用ください。

- (1) 運転中のリモコン操作は、危険ですのでご遠慮ください。
- (2) 本機を放送用送信アンテナや業務用送信アンテナの近くで使用すると、誤動作する場合があります。

## 共通定格

キーデータ送信	赤外線リモートコントロール
送信フォーマット	NECフォーマット
音声送受信周波数	49.85MHz (微弱電波)
使用温度範囲	-20°C~+60°C

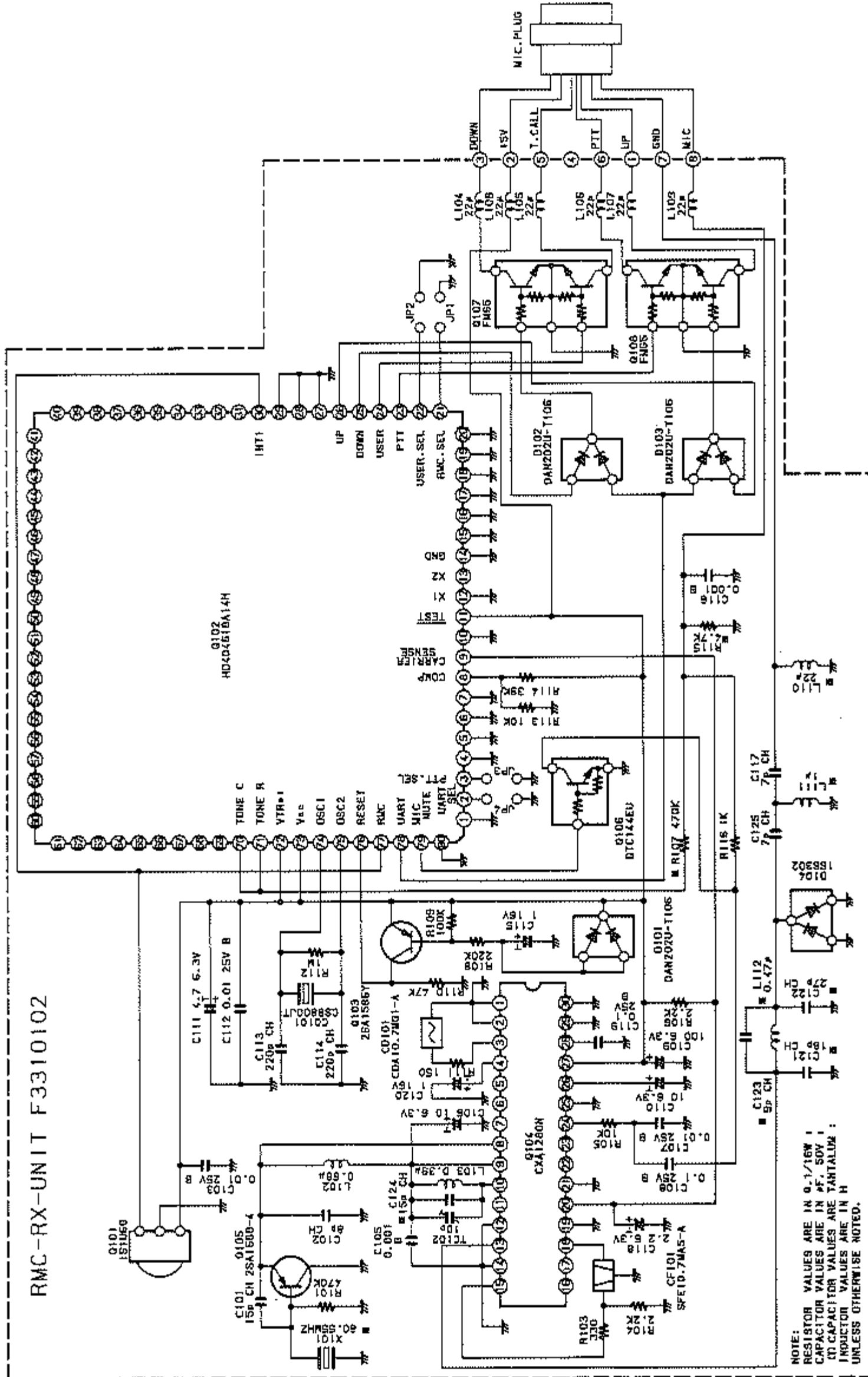
## 受光部ユニット

音声受信方式	シングルスーパーヘテロダイン
定格電圧	5.0V
音声受信出力	5mV (±16kHz 偏移時)
消費電流	最大15.0mA
ケース寸法	幅 26 × 高さ 16 × 奥行き 65mm (突起物は含まず。)
本体重量	約60g (コネクタ、ケーブルを含む。)

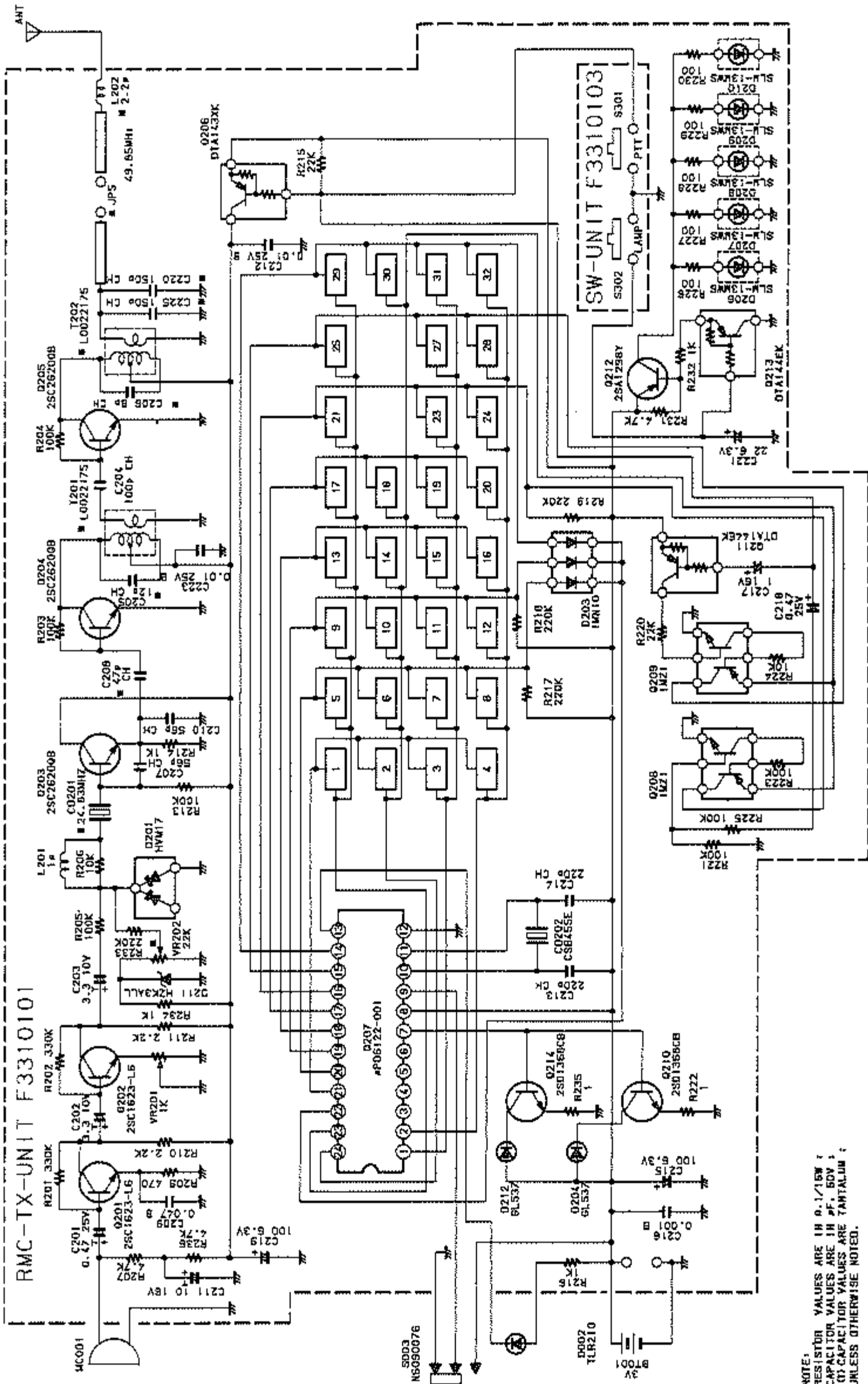
## 発光部ユニット

音声変調方式	リアクタンス変調
最大周波数偏移	±75kHz
定格電圧	3.0V
消費電流	音声送信時 約 9mA 赤外線発光時 約15mA (平均)
ケース寸法	幅 46 × 高さ 117 × 奥行き 20 mm (突起物は含まず。)
本体重量	約90g (単四乾電池2本を含む。)

# RMC-RX-UNIT F3310102



NOTE:  
 RESISTOR VALUES ARE IN OHMS UNLESS OTHERWISE NOTED.  
 CAPACITOR VALUES ARE IN PF. SOV.  
 INDUCTOR VALUES ARE IN H UNLESS OTHERWISE NOTED.



NOTE:  
 RESISTOR VALUES ARE IN  $\Omega$ , 1/16W  $\pm$   
 CAPACITOR VALUES ARE IN  $\mu$ F, 50V  $\pm$   
 (T) CAPACITOR VALUES ARE TANTALUM  $\pm$   
 UNLESS OTHERWISE NOTED.

# YAESU 保証書

機種名                     MW - 1                      
お買い上げ年月日                     年          月          日                      
保証期間(本体) お買い上げ日より                     1 年                    

標記製品は当社の十分な品質管理のもとに製造され、厳密な品質機能検査に合格したことを証明致します。

- お客様の正常な使用状態で万一故障した場合には、当社保証規定により無料修理させていただきます。
- 修理は、お買い上げの販売店またはヤエスサービス窓口へ必ず本保証書を添えてご依頼ください。

## お客様記入欄

ご住所 〒  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

お名前  
\_\_\_\_\_

電話番号 (            )  
\_\_\_\_\_

## サービス課記入欄

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

このセットについて、または他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの当社営業所／サービス宛にお願い致します。

なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名は忘れずにお書きください。

# 八重洲無線株式会社

営業部 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2

札幌営業所／サービス ☎003	札幌市白石区菊水6条1-1-33 石川ビル ☎011(823)1161
仙台営業所／サービス ☎983	仙台市若林区大和町5-6-17 ☎022(235)5678
関東営業所／サービス ☎332	埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎048(222)0651
東京営業所 ☎103	東京都中央区八重洲1-7-7 ☎03(3271)2861
名古屋営業所／サービス ☎457	名古屋市南区戸部町2-3-4 ☎052(811)4949
大阪営業所／サービス ☎542	大阪市中央区谷町9-1-22 NK谷町ビル ☎06(763)7151
広島営業所／サービス ☎733	広島市西区己斐本町2-12-30 SKビル ☎082(273)2332
福岡営業所／サービス ☎812	福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル ☎092(482)4082
サービスセンター ☎332	埼玉県川口市弥平1-5-9 ☎048(222)0651